

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp URL: http://www.elv.or.jp/

目次

巻頭言	1
ご挨拶・メッセージ	
経済産業省 小野 正 様	1
環境省 永島 徹也 様	1
自再協 須藤 幸 様	2
ELV機構河村代表理事	2
ELV機構伊丹副代表理事	2
ELV機構長谷川副代表理事	3
ELV機構吉川副代表理事	3
編集後記	3
編集企画 ～第3回～	3
特別寄稿 モンゴル市場	4

巻頭言

明けましておめでとうございます。本年が皆様に取って実り多き年になりますよう心から祈念いたします。

昨年末は機構の施策として自動車リサイクル連携高度化事業が実施されました。弊社も参加させていただき、さっそくコンピュータ、カプラーの取り外し作業をおこないました。いままではコンピュータは取り外しておりましたが、カプラーはとくに取り外してはおりませんでした。一部、運送にいく車輦は社員はそれほどことなく作業を完了。付加価値十分に取れ外し作業は、あつたようですが、ストレートを感じることができ、進めることができ、対象品になり得ます。

自動車の構造や市況がめまぐるしく変わってきた昨今、レアメタルは我々に希望を与えてくれる新たな可能性を与えてくれました。この分野は業界の協働と研究をすすめていくことで、新たな活路を見いだすことが出来ると確信しております。それにしても私が自動車解体をしていた頃とは違い、より高度な素材分別業務に業態が変わってきたことに時代の流れを改めて実感した次第です。

永田 則男 (広報部会長・山形)

関係各方面よりELV機構に対して新年のご挨拶が寄せられました

経済産業省製造産業局自動車課

自動車リサイクル室長 小野 正 様

平成25年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年の自動車リサイクル業界を巡る環境は、エコカー補助金効果によりELV発生台数が回復する一方、鉄スクラップ市況の下落基調、物流費高騰の問題が顕在化するなど変化の多い年でした。このような不安定な時こそ、中長期に亘る環境変化を展望しつつ、的確な時代認識に立った経営戦略が求められていると思います。新年を迎え、今後普及の拡大が見込まれる、HV、EV等の次世代自動車への対応、ベースメタルやレアメタルなど資源循環のスキーム構築もより重要な鍵となるものと考えられます。

また、リサイクル部品の安定的な供給体制の構築とそのための信頼性の確保も大きな課題です。また中長期的には次世代後継者の育成も重要な課題と認識しております。

自動車課は、中長期的な展望を見据えた自動車リサイクルの高度化やリユース部品の需要喚起に向けた検討など、これからも皆様との対話を続けながらより良い仕組みについて一緒に考えていきたいと思っております。 □

環境省廃棄物・リサイクル対策部

リサイクル推進室長 永島 徹也 様

平素より、自動車リサイクルの推進を通じた循環型社会の構築に御協力いただき、厚く御礼申し上げます。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって被災した自動車の処理については、震災直後から解体業者の皆様を始めとする関係者の多大なご協力をいただいた結果、平成24年11月現在で、被災3県において仮置場に移動された約7万台の被災自動車のうち、約5万8千台が所有者等に引き取られ、あるいは自治体によって処分されており、処理の完了に向けて着実な進捗が見られています。この場をお借りして、関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

使用済自動車の再資源化については、平成23年度には重量比で約99%が再使用・再生利用・熱回収されていることとなり、世界的にも類を見ない高い実績を達成しております。リサイクルの量的拡大が進む一方で、今後は、リユース部品の利用、レアメタルの回収、さらには水平リサイクルの促進に向けた取組を講じ、リサイクルの質的な高度化を図っていくことも重要であることから、環境省では「自動車リサイクル連携高度化事業」を実施しています。日本ELVリサイクル機構には、昨年度に引き続き、解体工程における貴金属・レアアース磁石の回収の事業採算性・実現可能性を評価する実証事業を行っていただいているところであり、多くの会員企業の皆様の御協力に御礼申し上げます。

末筆ながら、本年の皆様方の御健康と御多幸をお祈りして、年頭の挨拶とさせていただきます。 □

新年明けましておめでとうございます。

平素よりフロン類・エアバッグ類の適正処理に向けた活動への格別のご理解とご協力をいただいておりますことに、心より厚く御礼申し上げます。

さて、東日本大震災の発生から約2年が経過し、貴機構はじめ関連団体に加盟されている解体業者の皆様による献身的活動により被災車両処理が進んでいます。しかし、未だに一部地域では被災車両が保管場所に集積された状態が残っている状況も目にしております。今後も関係者と連携し、被災車両の処理に関する情報共有を図り、早急な処理の達成に協力していく所存です。

全国的には、震災後の混乱も収束し、使用済自動車の発生量も震災前の水準に戻りつつあるものの、依然として厳しい経営環境下にあると認識しております。新年を向かえ新政権が始動し、株式市場や為替の動向などムードは変わってきた感じですが、今後の経済状況はまだ読みにくいところではあります。

貴機構新体制下で取り組んでおられる「資源の高度化事業」「自動車リサイクル資格認定制度(仮称)」の構築は、今後の業界の舵取りを行う上で重要なことと見ており、震災復旧時に見せられた結束力と実行力が発揮されることを大いに期待しております。

当機構も自動車メーカー等とを繋ぐ良きパートナーとして、自動車リサイクル産業の健全で持続的な発展のために、フロン類・エアバッグ類に関する的確な情報発信と適正処理の推進活動に努め、貴機構並びに全国の解体業者の皆様がフロン類・エアバッグ類の適正処理の輪が広められることを切に願っております。

最後になりましたが、日本ELVリサイクル機構の益々の発展並びに会員皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。 □

日本ELVリサイクル機構 副代表理事 伊丹 伊平

明けましておめでとうございます。

昨年は河村新体制の下、今期活動の3本の柱を建てました。今年も皆様のご協力を頂きながら着実に推進して行きたいと考えております。

その1は、ELV機構にとって長年の懸案でありました「資格制度」構築の着手です。今年は、監督官庁、関係団体の皆様のお知恵とお力を拝借し、資格者が、業界のみならず社会的にもその実力を認知される制度として、記念すべき第1期生が誕生することになります。

その2は「企業連携による資源循環」の全国展開です。環境省の「自動車リサイクル連携高度化事業」を受託して、全国8ブロックに於いて同業者、2次加工業者、精錬業者、物流業者、自動車メーカー等と連携して貴金属の回収高度化事業を実施し、また、2か所のモデル地域でレアメタル、ワイヤーハーネスの回収実証実験をしました。今年の3月にはそれらの詳しい報告書が出ます。それから、売上と物流コスト等の見合いを十分精査し、地域団体の共同事業としての展開と、活性化につなげる支援をしていきます。

その3は「未来政策部会」の発足です。

グローバルな視野で日本の自動車リサイクルを捉え、業界をけん引する次世代のリーダーの育成を念頭に置いて、今年は自動車解体業を様々な角度から考察し、現在と未来を考えるためのセミナー開催を中心に活動します。

以上の活動は会員の皆様の参加なしでは成立しません。皆様の積極的なご参加とその見かえりが十分に吸収されることを、年頭にあたり、切に願うものであります。 □



日本ELVリサイクル機構の正副代表理事より
皆様に新年のご挨拶とメッセージを
お届けします。

日本ELVリサイクル機構 代表理事 河村二四夫

新年おめでとうございます。

昨年はELV機構の理事役員及び会員、関係者の皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。本年もよろしく願いいたします。

さて、本年度のELV機構の目標は「資源循環とリユース」です。

回収高度化事業 本事業において、全国地域団体の皆様には資源回収に多大なるご協力をいただき、感謝の念に堪えません。今後は3月中旬に事業概要をまとめた会員向け小冊子を発行する予定であり、3月末に環境省へ本事業の報告書を提出します。会員の皆様にとって今後の事業のご参考になればと期待しております。

リユース部品の物流コスト高騰 近年の物流コスト高騰の対策として、部品調達エリアのブロック化が必要となりました。物流コスト削減と地産地商といった営業戦略の見直しです。

自動車リサイクル資格認定制度 昨年は制度創設に向けた合同検討会に関係団体と行政が参加し、本制度の実施が基本合意されました。行政・自動車再資源化協力機構・自動車リサイクル促進センター・自工会等の関係団体と協力してプロジェクトを進めており、これから本格的に議論が始まります。本年は徐々に内容を積み上げていきます。本制度は自動車リサイクル業界の大きな柱になると確信しております。リサイクル技術の見える化事業です。我々の仕事に誇りを持ちましょう。

社会貢献活動 昨年は東日本大震災被災車両撤去ボランティア活動において、ELV機構が環境省より大臣感謝状を授与されました。ご協力いただいた会員の皆様には厚くお礼申し上げます。今後は各地域で災害支援ネットを構築するなどの社会貢献活動を期待いたします。我々は日本社会に必要な業種として生き、地域社会に生かされる活動が継続できることを願っております。

自り法の見直し 自り法10年目の見直しの議論に向けて、昨年はアンケートにて多くの皆様にご意見をいただき、深く感謝しております。ご意見は、現在、担当の未来政策部会を中心に精査しております。今後は関係団体と意見調整を進めてELV機構の意見を整理し、本年夏の産構審の席で発表いたします。その際には霞ヶ関で熱い思いを語る所存です。合わせて、ELV機構は義務と責任も増すことをご承知ください。

◇最後となりますが、会員の皆様には自動車リサイクル関連情報は宝であり、是非とも積極的に情報を取りにいらしてほしいと思います。地域団体、ブロック会議、ELV総会・交流会、セミナーなど諸会議へ積極的な参加が事業繁栄の源です。よろしくお願いいたします。 □



ELVニュースレター読者各位
本誌が、皆様の貴重な情報源として、また、会員交流の場としてお役にたてるよう、一層の努力をしております。
ご協力の程お願い申し上げます。
日本ELVリサイクル機構 広報部会

新年おめでとうございます

寒い冬も、もうすぐ暖かくなるように、経済情勢も日増しに良くなると、皆さんで願いましょう。不況の中でも常に成長している会社があります。我々の業界も、障害がたくさんあるようですが、実は異業種に比べれば、チャンスなのかもしれません。

まだ、未開発の分野がたくさんあります。それに対して、世論は我々の業績に対して理解を示し始めています。省資源国の日本にとって、資源の輸入に頼る加工貿易は、資源の再利用という高度資源循環が、最重要課題であります。

本年は、環境省からの受託事業の検証と、分析評価によって更なる企業連携の高度化へと進める必要があります。

また、未来政策部会の立ち上げによって、次世代に残せる仕組みを構築するために、事務局体制も新体制へと移行していきます。我々の次世代には、自動車リサイクル産業として、世界の最先端をリードできる人材とシステムを残すために、この部会で、関係業界のご協力を得ながら活動していきます。

河村新代表による新事業活動が、まさにスタートできるのは、ひとえに会員の皆さんのご理解とご協力の賜物です。特に資格制度の構築は、これまで真面目に取り組んでこられました会員の皆さんの念願であります。この制度を構築することによって、既存会員のいままでの努力が報われることを期待しますが、遵法精神は、自動車リサイクル法のもとで、我々が顧客の信頼を得るために最も重要な要素です。根気良く頑張りましょう。 □

《編集企画》 ～日本再生への道～ 第3回

アメリカの中東政策に紙面を割きすぎた感がありますが、あと少し加えます。9.11事件の際、アメリカは相手がタリバンであると断定してアフガンを攻撃します。さらに、大量破壊兵器を保有しているとの理由でイラクを攻撃しました。ところが、その後、犯行グループ19人のうち15人がサウジのパスポートを持つ組織犯罪グループだったことが分かったのですが、アメリカは戦争と見なしてアフガンを攻めたてました。また、イラクからは大量破壊兵器の痕跡は認められませんでした。一方、アメリカは、犯罪グループのほとんどがそのパスポートを所持していたサウジをとがめることはしませんでした。アメリカのアフガン、イラクへの進攻を見て益々態度を硬化させたのがイランです。国民は極右の大統領を選び、それに危惧する隣国のイスラエルがイラクへの態度を硬化させるといった連鎖反応が起こり、現在のこじれにこじれた中東情勢になっています。アメリカは、イランの核開発に強く反発していますが、イスラエルの核保有には何も言いません。ロシアや中国がおかしいというも分かるような気がします。もっとも、最近になって、これまで遠慮してきたイスラエルの核保有についても例外を認めるべきではないとの世論も高まっており、それにはイスラエルも焦りを隠せません。ここでアメリカとイスラエルの関係について若干触れますが、アメリカ国民のわずか3%に過ぎないユダヤ人への気の使いようはどこから来るのでしょうか。アメリカの良識ともいえるハーバード大学学生の15%、コーネル大の30%がユダヤ人(実際はユダヤ系アメリカ人)です。すなわち、アメリカでは、影響力のある優秀なビジネスマンのトップがユダヤ系の人達で、またその子弟も優秀だということです。例えば、民主党への政治資金の60%、共和党の40%がユダヤ系の人々による寄付とされています。アメリカはこれらユダヤ系の人たちが愛する祖国イスラエルに対して強いことがいえないということなのです。 □ (第三回完)

あけましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

新しい年を迎え、昨年からの政権交代により、今までの円高から一気に15円以上の円安が進み急激な環境の変化に、これまで素材の価格の底打ち感から回復の兆しが見え始めました。また、部品輸出のウエイトの大きな会社におきましては、少しながら明るい日差しが見えてきている様に思われます。ELV機構会員の皆様方には、益々の御発展をお祈り申し上げます。

私としては、昨年より、中古自動車の買取りに関して関連団体との協議を担当させていただいております。今後使用済み自動車の一般ユーザーからの買取りにつきましては業界統一の契約書が必要になる可能性が見受けられます。わかり次第ご案内いたします。今年度の目標としてリユース部品の利用促進に向けた対応が関連団体から大きな要望として承っております。自動車リサイクル法の骨子はリユース、リデュース、リサイクルの3本柱であります。当然ながら我々自動車リサイクル業者の1番の収益の柱はリユース部品に他なりません。今年は、改めてこのテーマを再認識しつつ取り組みたいと考えております。特にエアバッグに関する問題には改めて向き合う方向とテーマ化の必要性を感じます。上記を踏まえ今年度の中心的な取り組みとして会員皆様と共に活動してまいります。色々会員皆様方にはアンケート等願います機会があると存じますが、ELV機構一丸となりより良い自動車リサイクル環境を整えて行きましょう。

ご理解、ご協力宜しくお願い申し上げます。 □

▽おおむね晴天に恵まれたとはいえ、未だ仮の生活環境の中で二回目のお正月を迎えられた東北震災被災地の皆様には心よりのお見舞いを申し上げます。▽新政権担当者の口からは、震災復興に向けての前向きな決意が余り語られなかったのは、当然だからか、忘れ去られようとしているからか。前者であることを切に祈ります。▽為替の改善、株価上昇など、景気回復が期待される動きはありますが、単なる政権交代のご祝儀相場で終わらぬようお願いいたします。一年が過ぎ、結局インフレだけが残ったという年の暮れにならぬよう願います。▽今号に寄せて、関係省庁、機関の皆様

編集後記

様より新年のご挨拶を頂戴しました。当業界の発展と向上に向けて、今後引き続きご理解とご協力を頂きますよう、この場を借りて切にお願いいたします。▽また、機構常任役員の皆さんから力強い、示唆に富んだ新年のメッセージが寄せられました。役員の皆様の業界発展に向けたご努力に報いる最大の方法は、会員の強い意志と結束が示されることではないでしょうか。▽今年の元旦でリサイクル法の施行から丸8年が経過しました。今年の夏ごろから10年目のレビューに向けた作業が始まると思います。このシステムが、今後、末永く有効なシステムとして稼働するよう、全ての関係者の真摯な議論が望まれます。(編集子)

～特別寄稿～ 極寒のモンゴルにおられる今吉 萌子さん（JICAモンゴル事務所勤務）より、同国の中古車・中古部品市場に関するフォト・レポートが寄せられました。本号と次号の2度にわたり掲載します。（編集委員）



〔中古車/輸入車売場1〕 日本からの輸入車を売りに出しています。日本からの輸入車もここ数年でかなり増加したとか。



〔車の修理屋さん〕 なぜか、ベトナム人は修理の腕がいいと評判で、「ベトナム」のタイトルがついた修理屋さんが多い。



〔中古車/輸入車売場2〕 ほとんどは個人輸入で、こうした売場に持ち込む。展示料金は一台500円/台程度。セダンの人気車はマークⅡで、冬場でもエンジンが強いのが評判。プリウスの中古車も多く見る 6000s～12000s程度。ただ、冬の寒さには弱くモンゴル向きではないと言われている。



〔中古車/輸入車売場3〕 やはり人気は四駆。寒さに強く、凍結道路道路でも走れるから。（モンゴルの道路は冬場の凍結などからすぐ傷み凸凹）これら四駆は、安いもので25000sから、高いもので80000s以上も。2001～2004年の年式のものが多い。



〔売出し中：左〕 モンゴルで走行した車は3年もたてばエンジンの交換時期になるそう。また、首都ウランバートル市内は排気ガス規制もあり、3年未満で地方へ売られてゆくようです。「ЗАРНА」 と貼ってあるのは売出し中。こうした車がよく市内を（営業のために）走行しています・

（第一回 完）